農大だより

URL　https://www.pref.kagawa.lg.jp/nodai/

第 29 号　香川県立農業大学校
〒766-0004
仲多度郡琴平町榎井 34-3
TEL 0877-75-1141
FAX 0877-75-3989
E-mail：nodai@pref.kagawa.lg.jp

□専攻実習の取り組み　□活躍する卒業生　□頑張る修了生　□農業法人見学会
□ハウスの自力施工研修　□農福連携の農作業実習　□同窓会だより
□オープンキャンパス

専攻実習の取り組み

ミニトマトの出荷始まる

野菜園芸コース　佐々木一斗

私は、昨年、新設された施設を活用し、卒業論文のテーマとしてミニトマトの研究を行っています。

研究では、香川県農業試験場が開発した「収穫枝更新法」の活用方法について調べています。

この技術は、基準となる段数で主枝を摘心し、主枝の収穫を終えると新たな側枝に収穫の場を更新する方法であり、従来の「一本仕立て」で労力を要する「つる卸し作業」が不要となるため、作業の省力化が期待されます。

卒論研究では、収穫枝更新法の収量性・作業性の調査と更新する脇芽の効率的な残し方について検討しています。

十月一日からミニトマトの出荷がスタートし、収量調査など卒業論文の作成に向けた調査が本格的に始まりました。今後も研究を通して、ミニトマトの効率的な栽培方法を学び、就農後の経営に活かしたいと考えています。

卒業論文に取組み中！

花き園芸コース上原　華菜美

私達二年生は、校内と農家に分かれて専攻実習を行っています。私は校内で切花や鉢花などの栽培管理作業を通して花きの知識や技術を身につけています。

主に、午前中は切花の収穫、調整をして市場等に出荷し、午後は管理作業をしています。収穫量が多い時は忙しくて結構大変です。

専攻実習の中では、卒業論文課題として、新テッポウユリの栽植密度が切花品質に及ぼす影響について調査を行っています。

今後は、調査データを取りまとめ、卒業論文の作成に取り組んでいきます。今回の結果が県内の新テッポウユリ栽培の参考になればと思います。

専攻実習も含めた農大での経験が、社会に出て活かせるよう頑張りたいと思います。

モモの果実品質向上

果樹園芸コース　左海　聡起

私達果樹園芸コースの二年生は、校内にある果樹園と農業試験場府中果樹研究所に分かれて専攻実習を行っています。

専攻実習では、各々が専攻する果樹と卒業論文のテーマを決め、先生方から指導や助言を頂きながら取り組んでいます。

私は、モモの開花時期の違いが果実品質に及ぼす影響を調べる課題に取り組んでいます。

収穫時期に近づくと、落果や虫や鳥による食害が起こってしまうので、心配になって専攻実習のない日も果樹園に通いました。

現在は調査が終わったので、データを整理し、卒業論文の作成に取り掛かっています。

私は、専攻実習をしていくうちに、モモ農家になりたいと思ったので、その夢を実現させるために頑張ろうと思います。

坪庭を作庭中！

造園緑化コース　林　春奈

私達二年生は、校内において専攻実習を行っており、造園に関する専門的な知識や技術を身につけています。

私は、卒業論文課題として、校内の坪庭スペースにおいて、「植物を使わない石庭」をテーマとした作庭に取り組んでいます。

以前に作られていた坪庭は、植栽されていたマツが枯死して無くなっていたり、竹垣も老朽化するなど、景観を失っていたこともあり、新たなデザインの坪庭として作庭したいと思い、取り組むこととしました。

今後は、計画に基づき作庭作業を進め、卒業論文として作成していきます。

専攻実習も含めた農大での経験が、社会に出て活かせるよう頑張りたいと思います。

活躍する卒業生

西川　玲央さん（高松市）

平成二九年度
野菜園芸コース卒業

西川さんは高松市檀紙町出身で、平成二八年から二年間、担い手養成科野菜園芸コースに在籍しました。

当初はおじいさんが病気で管理できなくなった家庭菜園を借りて栽培を始め、中学二年の時に路上販売で農作物をお金に変える仕組みに興味を持ちました。さらに、付加価値を付けて差別化を図るためにはどうしたらいいかを考えている頃に出会ったのが有機農業です。その知識を得るため農業大学校で技術を学ぶことを選択しました。

農業大学校では、よしむら農園で専攻実習を行い、ナスの有機栽培における経営評価をテーマに卒業論文に取組み、また実習での作業を通じて有機栽培における経営とは何かを学びました。

農業大学校を卒業後は、離農した農家の農地を受け継ぎ、高松市新田町で有機栽培によるナス、ピーマン、オクラ、レタス、キャベツなど少量多品目栽培に取り組み、現在は産直出荷を中心に経営を行っています。

頑張る修了生

三好　義範さん、奈美さん（高松市）

三好さんご夫妻は、県外からUターンし、義範さんの地元、高松市牟礼町で就農されました。就農に先立ち、平成二五年に農大の就農準備研修を夫婦で受講し、野菜の栽培技術を学ばれています。

農業経営としては、地元特

産のキュウリを中心にナバナ、ブロッコリーなどを栽培されていますが、昨年からは新たにキュウリのハウス栽培にも取り組まれています。

農業経営を安定させるため、令和元年に「よしよしアグリ株式会社」を設立、さらには、新鮮な野菜を地元に届けたいという思いで、昨年九月に直売所を開設されました。

また、奈美さんは地域の農業女性グループ「東讃地域農ガール」の会長でもあり、交流会や食育活動を通じて地域農産物のＰＲもされています。

「農業を通じて地元を元気にしたい！」、よしよしアグリの夢は、まだまだ広がります。

農業法人見学会

先進的な農業経営の現場を知ることで、学生の就農や就職に役立てるため、保護者が会員の「後援会」が農業法人見学会を実施し、保護者と学生が参加しました。

香花園にて農大 OB が説明

十月二日に尾野農園、モリヒロ園芸、藤川果樹園を、十月三〇日に荒川農園、香花園、四国造園を訪問しました。各法人の経営者の方から事業内容、人材育成などについてお話を伺いました。そこで働く農大ＯＢの方も仕事の内容や体験談、今後の目標などを話してくれました。これからの就農や就職に参考になるお話を聞き、現場を知ることができて大変有意義な時間を過ごすことができました。保護者の方からは「社長さんの先を見据えた熱い思いや社員の育成に力を入れていることがよく分かり、学びの場となった。」という声をいただきました。

ハウスの自力施工研修が行われました

香川県では、アスパラガスの県育成品種である「さぬきのめざめ」をはじめ、パイプハウスを利用した施設野菜の栽培が広く行われています。

近年は、新たに施設の導入を希望する農家が多い一方で、資材費等の高騰に伴い、初期投資が高額になる傾向です。

そこで、パイプハウスの自力施工が注目されています。産地の高齢化が進み、リタイアする農家も出てくる中、使用していた施設の資材を再利用し、自力施工することで、施設の導入を検討している農家は、初期投資を抑えることが可能です。

今回の研修は、ハウスの自力施工技術を習得することによる「初期投資にかかるコストの低減」を目的として、農業生産流通課主催で実施されました。

八月下旬から九月上旬にかけて三日間の日程で開催された研修には、施設の導入を検討する農家のほか、次代を担う普及員が参加し、実際に体を動かしながら技術を学びました。

「農福連携」の農作業実習が行われました

香川県では、農業者の労働力不足対策と障害者の賃金向上のため、障害者が農作業支援を行う「農福連携」の取組みが進んでいます。

十月五日㈫午後、農大研修科のほ場で、福祉施設の担当者と施設を利用する障害者を対象とした農作業実習が行われました。

この実習は、農福連携を進める県（農業生産流通課、障害福祉課）とＮＰＯ法人香川県社会就労センター協議会が、農福連携の推進と福祉施設の参加を促すため実施したもので、当日は、三つの福祉施設の担当者（四名）と障害者（六名）が参加し、農大研修科教授と農福連携アドバイザーの指導のもと、農福連携の主要作業の一つである、にんにくの植え付け作業を行いました。

その後、この実習で手ごたえを感じた一施設が、新たに農作業支援の取組みを始めたとのことです。

同窓会だより

仲多度支部副支部長　稲毛　孝さん

私は、昭和五二年の開校と同時に県立農業大学校に入学しました。当時の新校舎は最新の設備が揃い、専攻コース共に定員いっぱいでした。学校生活は非常に心地良く、授業や部活動等活気に溢れていたのを憶えています。

私は野菜園芸コースに入り、植物の生育、生態に興味津々でした。二年生になるとイチゴ専業農家への派遣実習があり、緊張感のある中、充実した体験学習ができました。

卒業後は農協に就職し、農大時代の学習経験を活かせる営農指導業務に携わりました。

農協退職後は農業に専念していますが、当初は自作地が少ないため、借地を増やし、現在は認定農業者として約三ヘクタールを耕作しています。主に水稲、ブロッコリー、ニンニク、夏キュウリなどを栽培しています。

農業の栽培技術や経営方針は人其々異なりますが、食糧を生産する農業は有望な産業の一つだと私は思います。

農大生の皆さんが、将来の明るい農業を目指し、日本農業の発展に貢献される事を期待しています。

オープンキャンパスを開催しました

来年度、入学を希望される学生や保護者の方を対象に、八月一日(日)の午前と午後の二回、オープンキャンパスを開催し、五十名を超える方々が参加しました。

学校の概要や畜産と果樹園芸コースの講義内容などについての説明をした後、校内見学を希望される方を対象に花き園芸、野菜園芸、造園緑化の各コースの圃場を案内しながら各担当教授から実習内容等の説明がされました。

参加者からは「資料だけでは分からなかった圃場の状況等が見られたので、進路を考える参考になりました。」との意見もいただきました。